

令和 6 年 5 月 19 日現在

機関番号：33402

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2022～2023

課題番号：22K20259

研究課題名（和文）地方私立大学における留学生の量的拡大と教育の質的転換を両立する支援体制の在り方

研究課題名（英文）A Support System to Achieve both Quantitative Expansion of International Students and Qualitative Transformation of Education at Local Private Universities

研究代表者

潘 秋静（PAN, QIUJING）

山梨学院大学・経営学部・特任講師

研究者番号：10965627

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、地方私立大学における留学生の量的拡大と教育の質的転換を両立させる全学連携型学修支援体制を明らかにし、その意義を示すことである。調査の結果、地方私立大学の留学生支援の取組は、積極対応型全学推進タイプ、積極対応型局部推進タイプ、消極対応型局部推進タイプの3つのタイプに分類されることが明らかになった。支援に消極的な要因として、大学運営体制の差異、所在都市の特性、危機意識の差異、教職員間の連携不足が挙げられた。全学的な学修支援体制には、主導的役割を果たす部署の設置、多言語対応と文化理解の促進、専門的なサポート体制の整備、多領域対応型学生支援体制、IR活用型支援体制の整備が必要である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の意義は、地方私立大学における留学生支援の取り組みを体系的に分類し、その成功要因と課題を明確化した点である。これにより、教育の質的向上と留学生の量的増加を両立させるための実践的指針を提供する。また、多文化共生社会の実現に向けた具体的な支援体制の構築を促進し、地方私立大学の国際化を推進することで、地域社会の活性化と国際競争力の向上に寄与する。さらに、少子化の進行に伴い留学生の受け入れを強化することにより、地方私立大学の経営基盤を安定させ、生存と発展に必要な学生数を確保する上で重要な手段となる。本研究は、他の大学や地域においても応用可能なモデルを提供し、広範な社会的影響を持つものである。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to clarify and demonstrate the significance of a comprehensive academic support system balancing the quantitative expansion of international students and the qualitative transformation of education at local private universities. The survey revealed that international student support initiatives fall into three categories: Proactive university-wide promotion type, Proactive local promotion type, and Negative local promotion type. Factors contributing to passive responses include differences in university management systems, city characteristics, varying levels of crisis awareness, and lack of faculty and staff collaboration. A comprehensive support system requires a leading department, multilingual support, cultural understanding, specialized support systems, and enhanced student programs. These measures enable balancing the quantitative expansion of international students with the qualitative transformation of education.

研究分野：高等教育

キーワード：全学連携型 学修支援 留学生の量的拡大 質保証 少子化 地方私立大学 国際化 高等教育

1. 研究開始当初の背景

(1) 少子化に伴う経営危機

近年における少子化等の影響もあり、私立大学をめぐる経営環境は大変厳しい状況にある。私立学校振興・共済事業団（2022）に公表された情報から見ると、入学定員充足率が100%未満の大学は7校増加して284校となり、大学全体に占める未充足校の割合は1.1ポイント上昇して、47.5%に達している。このことから、日本全国の私立大学の半数近くが、2年連続で入学定員を満たしていないことが明らかになっている。帝国データバンク（2018）の「私立大学を運営する498法人の経営実態調査」によると、2016年度に減収となったのは209法人（全体の44.6%）、赤字となったのは163法人（同37.2%）、2014年度から2016年度の3年間連続で赤字となった法人は84法人（同19.9%）だった。私立大学の経営を支える最も重要な収入源は学費であるため、18歳人口の減少は私立大学の経営悪化に直結する。このような厳しい経営環境の中で、留学生の受け入れが地方私立大学にとって生存戦略の一つとなっている。

(2) 国際化に活路を求める量的拡大と質的保証との齟齬

大学のユニバーサル・グローバル化の進展に伴い、留学生の受け入れにおいて量的拡大だけでなく、学力・学修態度などの質的な多様化も見られるようになってきている。このような状況を踏まえ、地方私立大学における留学生の受け入れについて量的拡大のみに注目すると、日本全体の国際交流事業の評判に悪影響を与える可能性がある。国際化に活路を求める量的拡大と質的保証の齟齬をどのように解消するかが課題である。各大学は、アドミッション・ポリシー（AP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、ディプロマ・ポリシー（DP）の三つの方針を通じて学生の質保証を行うとともに、多様なニーズに対応するために学生支援制度の整備・工夫が求められている。一方で、大学における学生支援は一つの部署だけで全てを行うものではない。

2. 研究の目的

以上の研究背景を踏まえ、本研究の目的は、地方私立大学における留学生の量的拡大と教育の質的転換を両立させる全学連携型学修支援体制がどのようなものかを明らかにすることである。その上で、このような連動性のある全学的な体制の構築の意義を示すことを目指す。

3. 研究の方法

この目的を達成するために、本研究では日本の4地域（九州、中国、四国、中部）に分布する7つの地方私立大学における留学生業務に係る部署の教職員を対象にヒアリング調査を実施した（表1参照）。調査を通じて、地方私立大学の留学生受け入れの動向・実態、および質保証のための支援体制の有無と展開状況を明らかにした。それらの結果を基に、地方私立大学における留学生の量的拡大と教育の質的転換を両立させる全学的な学修支援体制の特徴とその構築の意義を探る。

4. 研究成果

本研究では、次のことを明らかにした。

(1) 留学生支援における地方私立大学の現状とその要因

日本の地方私立大学は、少子化の影響を強く受けており、留学生の受け入れと支援に対して様々な態度を示し

表1 調査対象一覧

no.		性別	国籍	部署	大学	大学所在地
1	K1-NAさん	男	日本	入試関係	K大学	九州-福岡
2	K2-GAさん	女	日本	国際交流関係	K大学	九州-福岡
3	K3-DAさん	女	日本	学部関係	K大学	九州-福岡
4	K4-DBさん	男	外国	学部関係	K大学	九州-福岡
5	K5-CAさん	男	日本	就職キャリア関係	K大学	九州-福岡
6	B1-NAさん	男	日本	入試関係	B大学	九州-福岡
7	B2-GAさん	男	日本	国際交流関係	B大学	九州-福岡
8	B3-DAさん	男	日本	学部関係	B大学	九州-福岡
9	B4-CAさん	男	日本	就職キャリア関係	B大学	九州-福岡
10	K1-NAさん	女	日本	入試関係	H大学	中国-広島
11	K2-DAさん	男	外国	学部関係	H大学	中国-広島
12	K3-SAさん	女	日本	学生支援関係	H大学	中国-広島
13	K4-SBさん	女	日本	学生支援関係	H大学	中国-広島
14	K5-SCさん	女	外国	学生課関係	H大学	中国-広島
15	M1-SAさん	女	日本	学生支援関係	M大学	四国-愛媛
16	M2-DAさん	男	日本	学部関係	M大学	四国-愛媛
17	J1-GAさん	男	外国	国際交流関係	J大学	四国-愛媛
18	S1-NAさん	男	日本	入試関係	S大学	中部-静岡
19	S2-DAさん	男	日本	学部関係	S大学	中部-静岡
20	S3-SAさん	男	日本	学生課関係	S大学	中部-静岡
21	S4-CAさん	男	日本	就職キャリア関係	S大学	中部-静岡
22	Y1-NAさん	男	外国	入試関係	Y大学	中部-山梨
23	Y2-NBさん	男	日本	入試関係	Y大学	中部-山梨
24	Y3-GAさん	男	日本	国際交流関係	Y大学	中部-山梨
25	Y4-GBさん	女	日本	国際交流関係	Y大学	中部-山梨
26	Y5-SAさん	男	日本	学生課関係	Y大学	中部-山梨
27	Y6-SBさん	女	外国	学生課関係	Y大学	中部-山梨
28	Y7-DAさん	男	外国	学部関係	Y大学	中部-山梨
29	Y8-CAさん	男	日本	就職キャリア関係	Y大学	中部-山梨
30	Y9-CBさん	男	外国	就職キャリア関係	Y大学	中部-山梨

ている。調査の結果、地方私立大学における留学生支援の取り組みは以下の3つのタイプに分類された。

1) タイプA：積極対応型、全学推進

このタイプの大学は、全学的な取り組みとして留学生の受け入れと支援に積極的に取り組んでいる。大学全体が一体となって、留学生の学習環境を整え、サポート体制を充実させることに注力している。

2) タイプB：積極対応型、局部推進

このタイプの大学は、一部の学部や部署が中心となって留学生支援に積極的に取り組んでいる。全学的な取り組みは限定的であるが、特定の部門がリーダーシップを発揮して、留学生に対する支援を行っている。

3) タイプC 消極対応型、局部推進

このタイプの大学は、留学生支援に対してあまり積極的ではないが、一部の学部や部署が限定的な支援を提供している。全体的な取り組みは不足しているものの、一部では留学生支援が行われている。

調査から明らかになった留学生支援に対する消極的な対応の要因として、以下の通り、大学の運営体制、所在都市、危機意識、教職員連携の不足が挙げられる。

第一に、大学の運営体制の差異。大学の運営が家族企業であるか否かが影響する。家族企業の場合、トップダウンでの指示や政策が迅速に実行されることが多く、留学生支援に対する対応が積極的になることがある。一方、非家族企業の場合、意思決定が分散しているため、対応が遅れることがある。第二に、大学の所在都市の差異。大学が所在する都市の特性も影響を及ぼす。地方都市の場合、地元の生徒だけでは十分な入学者数を確保できないため、留学生の受け入れに積極的になる。反対に、大学は地元の生徒だけで十分な入学者数を確保できるため、留学生支援に消極的な場合がある。第三に、危機意識の差異。大学の危機意識も大きな影響を及ぼす。少子化に対する危機意識が高い大学は、留学生の受け入れと支援に積極的に取り組む。一方、危機意識が低い大学は、現状維持に固執し、留学生支援に対して消極的になることがある。この危機意識は、大学の運営者や大学が所在する地域の影響を受けることが多い。最後に、教職員連携の不足。教職員間の連携不足は、情報共有の欠如や役割の不明確さ、さらには余計な業務への関心の低さにつながる。このため、留学生支援の一貫性や効果的な対応が難しくなり、全体的な支援体制の弱体化を招く要因となる。

(2) 全学連携型学修支援体制の特徴

全学連携型学修支援体制の実像は以下の5点の特徴にまとめられる。

1) 主導的役割を果たす部署の選定

全学を挙げて留学生の受け入れと支援に取り組む大学は、学部や部署間の連携を強化し、留学生のサポート体制を一貫して提供する。各部門（教務、学生課、学修支援、国際事務など）が連携し、情報共有や問題解決のプロセスを整備することで、留学生の多様なニーズに対応することが可能となる。特に、部門間の連携を効果的に進めるためには、連携の中心となる主導的役割を果たす部署を設置することが有効である。この部署は、学修支援室か国際交流センターか学生課などが該当する。

2) 多領域対応型学生支援体制の整備

学生支援活動は、社会の変化や大学のユニバーサル化の進展に伴い、多様な個性、学力、背景や資質を持つ学生が増加し、それに対応するための支援活動の範囲が拡大している。そのため、多領域対応型学生支援体制の整備が求められている。日本学生支援機構（JASSO）による平成25年度「大学等における学生支援の取り組み状況に関する調査」の分類によると、学生支援活動は、以下の10領域に分けられる：1. 学修支援、2. 対人関係・心理・性格相談支援、3. メンタルヘルス支援、4. キャリア教育、5. 就職支援、6. 経済的支援、7. 生活支援、8. 課外活動支援、9. 障害学生支援、10. 留学生支援。これらの支援領域のうち、7つ以上に対応する支援組織を「多領域対応型学生支援組織」と呼ぶ。この多領域支援を包括できる部署としては、学生課や学生センターが一般的である。

3) 多言語対応と文化理解の推進

留学生の多様な背景に対応するために、多言語対応を進め、文化の違いを理解する教職員を配置することが重要である。具体的には、通訳や翻訳サービス、またはバイリンガルのスタッフを増やし、言語の壁を乗り越えるためのサポートを提供する。これにより、コミュニケーションの障害を最小限に抑えることができる。

4) 専門的なサポート体制

教育学、心理学、言語学などの専門分野および各学部の教員を配置し、留学生の学業や心理的なサポートを提供する。また、留学生専用のカウンセリングサービスや学習サポートセンターを設置し、個別の支援を行うことで、留学生の適応を促進する。これにより、学業面だけでなく、精神的な面でも包括的なサポートが可能となる。

5) IR (Institutional Research) 活用型支援体制

留学生支援の質向上・改善に繋がるPDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクルを有効に機能させるためには、データに基づいた評価が必要である。アンケートやフィードバックを通じて、支援の連携効果や成果を定量的に検証し、改善に繋げることが重要である。これにより、エビデンスに基づく効果的な支援体制の構築が可能となる。

(3) 全学連携型学修支援体制のあり方

地方私立大学において、留学生の量的拡大と教育の質的転換を両立させる全学的な学修支援体制を構築するためには、トップダウンのリーダーシップ、危機意識の共有、多言語対応の強化、専門教員の増員、部門間の連携強化が必要である。

1) トップダウンのリーダーシップ

大学のトップ (学長や理事会) が率先して留学生支援の重要性を認識し、全学的な支援体制を推進するリーダーシップが求められる。家族経営の大学ではトップダウンでの迅速な意思決定が可能であるが、非家族経営の大学においても同様のリーダーシップが必要である。このリーダーシップは、留学生支援に関する具体的なビジョンと戦略を示し、全学的なコミットメントを引き出すために重要である。ただし、どの程度までトップダウン式の意思決定が必要となるかについては、柔軟に検討する余地がある。

2) 危機意識の共有

全教職員が少子化による危機を認識し、留学生の受け入れと支援が大学の生存戦略であることを理解することが重要である。定期的な研修や啓発活動を通じて、教職員全体の意識向上を図ることが求められる。これにより、教職員が一丸となって留学生支援に取り組む姿勢を醸成することが可能である。

3) 多言語対応の強化

入り口から出口まで留学生の母語対応ができるスタッフの配置や、通訳・翻訳サービスの充実が必要である。また、多文化理解のための研修プログラムを導入し、教職員の対応力を高めることが求められる。

4) 専門教員の増員

教育学、心理学、言語学などの専門教員を増員し、留学生への専門的な指導やサポートを強化する。また、教員の業務負担を軽減するためのサポートスタッフの増員や、働き方改革も重要である。

5) 部門間の連携強化

留学生支援は、教務部門、学生支援部門、国際事務部門などの複数の部署の緊密な協力が必要である。部署間の情報共有や連携を強化するためには、定期的な会議や情報交換の場を設けることが重要である。これにより、各部署が一体となって留学生をサポートし、問題解決のプロセスを明確にすることができる。一方、部門間の連携強化を実現するためには、トップダウンの視点からの明確なビジョンと指針の提示、具体的な方針と目標の設定、リソースの適切な割り当てが必要である。また、修学支援室や国際交流センターのような主導的役割を果たす部署を設置し、定期的な連絡会議の開催、情報共有システムの構築、教職員の意識向上を図ることで、効果的な連携が可能となる。

(4) 全学連携型学修支援のイメージ

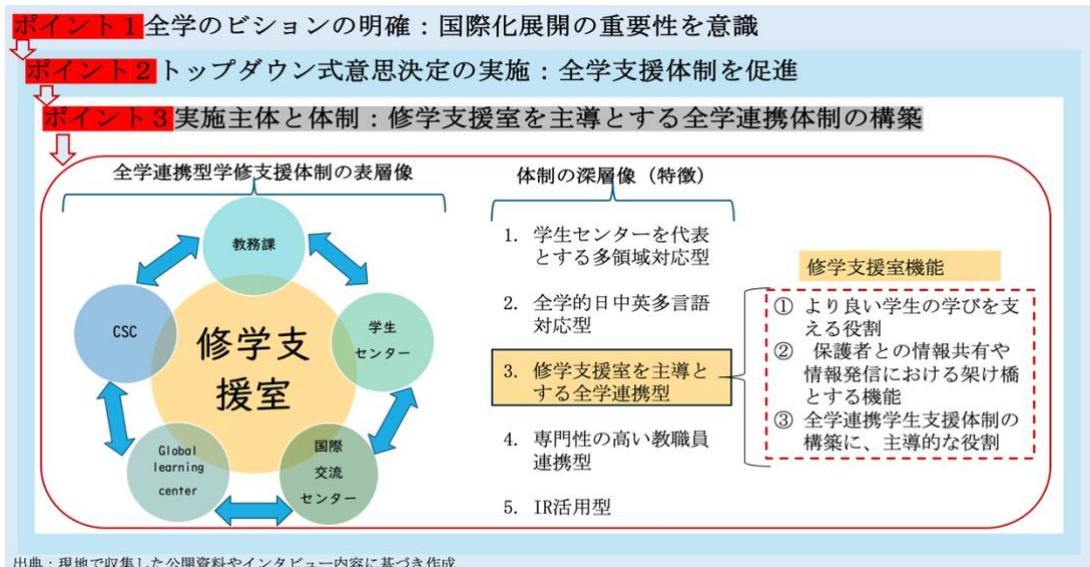


図1 全学連携方学修支援体制のイメージとあり方(タイプAを事例)

要するに、地方私立大学における留学生の量的拡大と教育の質的転換を両立させるためには、

全学連携型学修支援体制の構築が不可欠である。すなわち、この体制の構築と実現には、以下の3つのキーポイントが重要となる。

- ① 全学国際化のビジョンの明確化：国際化展開の重要性を認識し、全学で共有するビジョンを明確にすることが求められる。これにより、全学一丸となって国際化を推進する基盤が整う。
- ② トップダウン式意思決定の実施：大学全体の支援体制を推進するために、トップダウン式的意思決定を実施することが必要である。これにより、迅速かつ効果的な意思決定が可能となり、全学的な連携が強化される。
- ③ 実施レベルの主体と体制の確定：修学支援室を主導とする全学連携体制を確立し、具体的な支援機能と役割を明確にすることが重要である。これにより、各部署が連携して留学生支援に取り組む体制が整う。

これらのキーポイントを備えた体制は、図1に示されたタイプAの大学の事例モデルから参照できうる。すなわち、この体制の表層像は、主導的な一部署と関係するすべての部署の連携によって構成される。さらに、多領域対応型学生支援体制、多言語対応や専門的なサポート体制、部署間の連携強化、IR検証体制が全学連携型学修支援体制の深層像となる。

このように、地方私立大学における全学連携型学修支援体制の構築は、大学の生存戦略として極めて重要である。留学生の受け入れと質的な教育を実現することで、大学の競争力と質の向上に大きく寄与することが期待されている。

上記の研究成果の一部は、主に以下のとおり公開されている。

潘秋静, 李憶南, 太郎良留美, 富永大悟, 倉澤一孝 (2022) 「私立大学における学生支援の新たな展開—山梨学院大学の取り組みを事例に一」 京都大学第29回大学教育研究フォーラム、2023年3月15日、京都大学。

潘秋静 (2023) 「留学生募集と質保証は如何に両立できるのか—YGU 修学支援室の立ち上げと機能から—」 日本初年次教育学会第16回大会ミニシンポジウム、山梨学院大学。

潘秋静 (2023) 「地方私立大学における留学生の量的拡大と質的保証を両立する学生支援とは」 日本高等教育学会第26回大会、2023年6月11日、千葉大学。

Qiuqing PAN (2023), "Challenges and Countermeasures for Higher Education in Japan in the Context of Declining Birthrates and an Aging Population," The 3rd SISU International Young Scholar Forum, Shanghai International Studies University.

<引用文献>

Qiuqing PAN (2022), "How to Shape Characteristics of Chinese Universities by Classified Development: Reflections on the Reform of Japanese Private Universities," Research in Education Development, Vol. 21, pp. 11-21.

潘秋静, 李憶南, 太郎良留美, 富永大悟, 倉澤一孝 (2022) 「私立大学における学生支援の新たな展開—山梨学院大学の取り組みを事例に一」 『経営学論集』 第4号、pp. 79-93.

潘秋静, 潘威潭, 倉澤一孝, 段鈺 (2023) 「大学教育の効果をどのように測るのか—Y大学の卒業生調査から—」 『経営学論集』 第5号、pp. 1-12.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 Mingkun QUE; Qiuqing PAN	4. 巻 21
2. 論文標題 How to Shape Characteristics of Chinese Universities by Classified Development: Reflections on the Reform of Japanese Private Universities	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Research in Education Development (CSCSI)	6. 最初と最後の頁 pp11-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3969/j.issn.1008-3855.2022.21.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 潘秋静; 李憶南; 太郎良留美; 富永大悟; 倉澤一孝	4. 巻 4
2. 論文標題 私立大学における学生支援の新たな展開 山梨学院大学の取り組みを事例に	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 経営学論集	6. 最初と最後の頁 pp79-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Qiuqing PAN; Noboru MIYOSHI	4. 巻 20
2. 論文標題 Undergraduate Student's Learning Outside of Class Time During COVID-19 Pandemic in Japan: Impact of Online Education	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Higher Education Forum	6. 最初と最後の頁 pp23-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/53849	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Noboru MIYOSHI; Qiuqing PAN; Takuya KIMURA; Takahiko NAKASEKO	4. 巻 20
2. 論文標題 Relationship between Learning Engagement and Learning Outcomes in Online Education during the COVID-19 Pandemic: A semi-structured interview	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Higher Education Forum	6. 最初と最後の頁 pp41-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15027/53850	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 潘秋静, 潘威潭, 倉澤一孝, 段鈺	4. 巻 5
2. 論文標題 大学教育の効果をどのように測るのか-Y大学の卒業生調査から	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 経営学論集	6. 最初と最後の頁 1, 12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

[学会発表] 計11件 (うち招待講演 6件 / うち国際学会 4件)

1. 発表者名 潘秋静; 李憶南; 太郎良留美; 富永大悟; 倉澤一孝
2. 発表標題 私立大学における学生支援の新たな展開 山梨学院大学の取り組みを事例に
3. 学会等名 京都大学第29回大学教育研究フォーラム (2023年3月15日)
4. 発表年 2022年 ~ 2023年

1. 発表者名 Qiujing PAN
2. 発表標題 An Empirical Study on Understanding Diversity in Chinese Higher Education based on a Horizontal Diversity Perspective
3. 学会等名 Comparative International Education Society 67th Annual Meeting (Washington University, USA, 15th February, 2023) (国際学会)
4. 発表年 2022年 ~ 2023年

1. 発表者名 潘秋静
2. 発表標題 新入生に実施したアンケートから見た初年次教育のあり方
3. 学会等名 令和4年度IRIに関する山梨学院大学・山梨学院短期大学 相互FD研修会 (2022年9月22日) (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Noboru MIYOSHI; Qiujing PAN
2. 発表標題 Relationship between Learning Engagement and Habits and Learning Outcomes in Online Education during the COVID-19 Pandemic : Based on an Interview Survey
3. 学会等名 Higher Education Research Association conference, (Seoul University, Korea, 27th April,2022) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 潘秋静
2. 発表標題 地方私立大学における留学生の量的拡大と質的保証を両立する学生支援とは
3. 学会等名 日本高等教育学会第26回大会 2023年6月11日
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Qiujing PAN
2. 発表標題 The Development of Diversity in Higher Education in China: Has Vertical Diversity been Over-Focused?
3. 学会等名 Higher Education Research Associate (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 潘秋静
2. 発表標題 国際化に向けた学修支援室の取り組み-PDCAサイクルを重視した学修支援-
3. 学会等名 山梨学院大学全学国際化SD研究会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 潘秋静
2. 発表標題 留学生募集と質保証は如何に両立できるのかーYGU修学支援室の立ち上げと機能からー
3. 学会等名 日本初年次教育学会第16回大会 ミニシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 潘秋静
2. 発表標題 データから見る教育効果ー卒業生・就職先調査に基づく分析と考察ー
3. 学会等名 2023年度 IRに関する山梨学院大学・短期大学相互FD研究会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 潘秋静
2. 発表標題 中国高等教育の事情と学生の進学・留学動機
3. 学会等名 山梨学院大学大学院社会科学研究科 FD研究会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Qiuqing PAN
2. 発表標題 Challenges and Countermeasures for Higher Education in Japan in the Context of Declining Birthrates and an Aging Population
3. 学会等名 The 3th SISU International Young Scholar Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 潘秋静	4. 発行年 2024年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 288
3. 書名 中国独立学院制度の発足・普及・変貌: 高等教育発展の新たな試み	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------